

第5回 LCV「諏訪圏情報BOX」

- 放送日 令和5年8月8日(火)、17日(木)
- テーマ 災害に強い森林づくりについて
- 出演者 諏訪地域振興局林務課治山林道係 山田 隆太

○ 聞き手とのやりとり(概要)

(Q) 最近の災害と言えば、令和3年8月、9月豪雨災害の諏訪地域の復旧状況はどうですか？

(A) 諏訪地域振興局管内では、岡谷市・諏訪市・茅野市・下諏訪町で、山での災害・山地災害が29箇所・約15億円、林道災害が32路線・約5億円、諏訪湖の西側を中心に発生しました。

現在、山地災害、林道災害ともに災害復旧事業の早期完成を目指し、諏訪地域の安全・安心の確保に努めています。

ちなみに令和4年度から現在にかけて、大きな山地災害は発生しておりません。

(Q) 諏訪地域では、近年、山地災害が続いていますが、どのような災害復旧を行っていますか？

(A) 山地災害の復旧を行う治山事業では、平成18年7月に岡谷市などで発生した山地災害を教訓に策定した「災害に強い森林づくり指針」に基づき、治山ダムなどの施設整備と間伐などの森林整備を進めています。

(Q) 「災害に強い森林づくり指針」とは？

(A) 「尾根マツ、谷スギ、中ヒノキ」って聞いたことはありますか？

(Q) 聞いたことないですね。どんな意味でしょうか？

(A) これは、マツは表土のうすい乾いた場所である尾根、スギは表土の厚い湿った場所である谷、ヒノキはちょうどその中間の斜面が生育に適しているということを表しています。

(Q) 樹木によって生育に適する場所があるんですね。

(A) そうなんです。樹木には生育に適切な場所があり、これを「適地適木」と言います。「災害に強い森林づくり指針」では、森林整備を行ううえで「適地適木」を守ることとし、治山事業では、その場所に適した樹種を植栽し、育てるようにしています。

(Q) 他にもありますか？

(A) はい。平成18年7月豪雨で崩壊した森林は、間伐が行われておらず、幹は細く、

根が小さい状態であったため、崩壊とともに倒れ、流木（ながれぎ）となって被害を拡大しました。

このように、森林は幹や根の成長を促すため適度に間伐などを行う必要があります、これを「適正管理」と言います。

「災害に強い森林づくり指針」では、治山事業で積極的に間伐などの森林整備を進めていくこととしています。

(Q) 治山事業による山地災害の復旧は、治山ダムなどの施設整備とともに、「適地適木」・「適正管理」による森林整備を進めているんですね。

その他、今後の大雨の際、防災上の留意点はありますか。

(A) お住まいの地域で大雨の予報が出そうな時は、各市町村が配布したハザードマップで、避難場所は何処なのか、ご自宅の近くや避難経路が土砂災害警戒区域等の危険な場所になっていないか、事前に確認しておくことが肝心です。

また、大雨などにより市町村から、高齢者避難、避難指示が出た際、すぐに避難出来るよう、避難時の持ち物の準備をしておくことも大事です。

なお、避難する際は、迷わず、すばやく行動することが、命を守ることにつながります。危険と感じたら、すぐに行動しましょう。

(Q) 梅雨が明けたとはいえ、局地的な大雨が心配ですね。皆さんも、万が一に備え、日頃から避難の準備をしておきましょう。

山田さん、本日はありがとうございました。

ありがとうございました。